

インクルーシブな空間の構築を目指す運動会における 教師の有効的な支援について

棚原 未鈴 (東京学芸大学)

1. 目的

本研究の目的は、お互いの人権や個性を認め合う共生する社会を目指すために、教師の運動会におけるインクルーシブを視点とした有効的な支援について検討することである。

2. 研究方法

- 1) 対象者：特別支援学級2学年担任のA教諭とその学級に在籍している児童R（自閉症スペクトラム障害と注意欠陥多動性障害がある）
- 2) 調査方法：運動会練習全3回の授業観察とA教諭へのインタビュー調査
- 3) 分析方法：授業観察とインタビュー調査の結果から、総合的に分析した。

3. 結果と考察

- 1) 障害のある児童が自信をつけられるような支援
全3回の授業観察より、A教諭がRを褒める声掛けやモチベーションを上げるような声掛けが多いことが明らかになった。また、A教諭は意図的に成功体験を作り出し、Rの自己肯定感を高めるように意識していることが分かった。
- 2) 複数人で連携・協力した支援
全3回の授業の中でA教諭と支援学級1学年担任のB教諭が連携し、複数の児童を支援している姿が何度も見られた。また、A教諭も一人に対応することに難しさを抱えていることが分かった。これらのことより、運動会において、通常学級の教師も含め全体で連携・協力することが重要である

と考えられる。

- 3) 障害の特性や児童の個性に合わせた支援
全3回の授業では、Rの個性に合わせた合理的配慮が多くみられた。その支援により、Rは運動会練習及び運動会に自信をもって参加することができていた。また、A教諭は普段の関わりからRの個性を把握し、その状況に適した支援ができるように心がけていることが分かった。
- 4) 障害のある児童と通常学級の児童が共に協力して学び合うための支援
支援学級の児童と通常学級の児童が直接的に関わり合ったのは、グループ練習の1回のみであった。しかし、そのグループ練習では、互いに関わり合い、Rが笑顔で生き生きと踊っている姿が見られた。

4. 結論

本研究より、①障害のある児童が自信をつけられるような支援、②複数人で連携・協力した支援、③障害の特性や児童の個性に合わせた支援、④障害のある児童と通常学級の児童が協力して学びあうための支援がインクルーシブな空間の構築を目指す運動会において有効的であると考えられる。

5. 主な参考文献

- 1) 黒川君江 (2009) 特別支援教育早わかり. 小学館：東京, p30
- 2) 土田了輔・笠原芳隆・丸山実花 (2022) 自閉症スペクトラム傾向のある児童に対する体育授業の指導法に関する現代的課題. 上越教育大学教則大学院紀要 9 : 143-152